

令和 5 年 5 月 26 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H04384

研究課題名(和文) スマート・ツーリズムにみる観光の変容

研究課題名(英文) Transformation of Tourism in Terms of Smart Tourism

研究代表者

杜 国慶 (Du, Guoqing)

立教大学・観光学部・教授

研究者番号：40350300

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は観光実態の新たな変化に注目し、スマート・ツーリズムという枠組で、ICTの革新的な発達による観光の変容を考察した。日本国内だけでなく、中国、韓国、イタリア、カンボジアなどの国々を事例として、情報伝達のリアルタイム性による観光者と観光地域の関係、観光情報個人化による観光行動、観光者同士の情報コミュニティ形成と観光者の役割変化について研究した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

スマート・ツーリズムという概念と枠組は2014年以降、英文の学術雑誌で提唱されたが、日本ではまだ重要視されていない。日本ではICTの研究が進んでいるにも関わらず、2017年の国や自治体の情報提供効果を示す「国のブランド戦略」はWEFの評価で42に陥っている。その理由として、日本ではICTに関する研究も実践も蓄積してきたものの、観光者を注目したICTの利用状況には着眼しなかったからであった。本研究は、こうした日本の観光状況そして海外の先進事例を念頭に置いて進め、その結果を世界の観光研究の発展に位置付けようと努力した。観光情報発信のリアルタイム化と個人化に伴って現れた観光の変容を把握した。

研究成果の概要(英文)：Focused on new changes in tourism, this study examined the transformation of tourism due to the innovative development of ICT within the framework of smart tourism.

Principally, we studied the relationship between tourists and tourism regions with the development of real-time transmission of information, changes in tourists' behavior due to personalization of tourism information, formation of information communities among tourists, and changes in the roles of tourists, with the case studies in China, South Korea, Italy, Cambodia as well as in Japan.

研究分野：観光学

キーワード：スマート・ツーリズム 情報通信技術 観光者 観光行動 ビッグデータ

1. 研究開始当初の背景

スマート・ツーリズム (Smart Tourism) という概念と枠組は 2014 年以降、スマート・シティ (Smart City) という概念に因んで英文の学術雑誌で提唱されたが、日本ではまだ重要視されていない。日本では ICT の研究が進んでおり、世界をリードするほど先進的な技術力を持っているにもかかわらず、2017 年の国や自治体の情報提供効果を示す「国のブランド戦略」は WEF の評価で 42 に陥っている。その理由として、日本では ICT に関する研究も実践も蓄積してきたものの、観光者を注目した ICT の利用状況には着眼しなかったからであろう。

情報通信技術 (ICT: Information Communication Technology) の革新は、観光産業だけでなく、観光地のイメージ形成まで影響を及ぼし、観光産業のソフトパワーとも言われるように重要視されている。そのため、多くの国・地域が情報通信技術のインフラ整備に力を入れている。近年、スマートフォンなどの個人移動端末の普及に伴い、観光者の位置情報が正確かつ迅速に把握できるため、観光情報発信のリアルタイム化と個人化が実現可能になった。そして、観光情報は観光地の従来の発信手段に代って、個人端末に直接伝達するようになってきた。

2. 研究の目的

本研究はスマート・ツーリズムという枠組みで、情報通信技術の革新的な発達による観光の変容を考察することを、研究目的とする。スマート・ツーリズムとは、IT 機器を介して旅行者に観光目的地や飲食、交通、予約、旅行案内などの観光関連情報やサービスを提供する総合的なアプローチであり、情報通信技術を融合した次世代観光形態とも言われるほど注目されている。

訪日観光者が急増する中、日本の観光情報を如何に有効かつ迅速に訪日観光者に発信するのが重要な課題となる。一方、訪日観光者の行動を観察すると、訪日観光において情報収集が必ずしも日本政府または自治体や民間業者の情報発信に依存している訳ではないというより、むしろ共通言語を媒体としてそれぞれの情報コミュニティを形成し、そこで情報を交換する。

そのため、ICT の変革による観光変容の個々のメカニズムを把握することが重要な研究課題と考えられる。そこで、このような観光の変容が訪日観光そして日本の地域にどのような影響を与えるか究明する必要がある。

3. 研究の方法

本研究と課題と研究方法は以下のようにまとめられる。

(1) 報伝達のリアルタイム性による観光者と観光地の関係の解明

観光者を対象とする追跡調査とインタビュー調査を通して、観光情報の獲得方法を詳細に記録する。具体的に言えば、観光の準備段階と観光期間中に分けて、観光と関わる旅行先の選択、交通手段選択と予約、宿泊の選択と予約、飲食店や見学先、イベント参加の選択と予約、観光後のフィードバックについて、利用する情報源と検索手段を分析し、観光者と観光地との関係を解明する。とくに、情報伝達のリアルタイム性によって観光者が観光の前、途中、後の意識変化を注目する。観光の行動パターンについて、観光者の国籍・地域・年齢・性別・訪問経験などの個人属性を意識してデータを収集して分析する。

この内容に関する研究は、主に観光者へのインタビュー調査、観光行動に同行して参与観察の方法を利用する。また、観光者にはスマートフォンの利用経歴の記録などのスクリーンショットを提出してもらい、データベースを構築して定量的な分析を行う。

(2) 情報個人化による観光行動の解明

観光者の嗜好、地理位置、観光状況、個人デバイスの 4 つの要素に基づいて、観光者の行動を分析するため、TripAdvisor などの観光支援アプリから情報収集し、国籍による相違に注目する。データ分析には地理情報システム GIS による地図化とヒットマップ(カーネル密度)分析と統計分析を利用した。

(3) 者同士の情報コミュニティ形成と観光者役割変化の解明

TripAdvisor と大衆点评、馬蜂窩などの SNS のクチコミ情報を利用し、観光者の情報コミュニティ形成のメカニズムを解明し、観光者の役割を明らかにした。クチコミ情報分析には、テキストマイニングという手法を用いて KH Coder というソフトで解析した。

4. 研究成果

本研究は観光実態の新たな変化に注目し、スマート・ツーリズムという枠組で、ICT の革新的な発達による観光の変容を考察することを、研究目的とする。主に、情報伝達のリアルタイム性による観光者と観光地の関係、観光情報個人化による観光行動、観光者同士の情報コミュニティ形成と観光者の役割変化について研究した。

まず、海外で現地調査を実施し、スマート・ツーリズムの実態を把握した。具体的には、ハワイで観光者のスマートフォンを通じた情報取得と観光行動との関係について調査し、スマート・ツーリズムの形態と類型を解明した。韓国では現地調査を行い、スマート・ツーリズムによる環境整備は観光者だけでなく地域住民も享受することが分かった。ソウル市と釜山市を対象とし

て、韓国のスマート・ツーリズムの実態を調べるための現地調査を実施した。とくに、ソウル市運営の自転車レンタルサービスに注目して調査した。同様に、中国でも現地調査を行い、安徽省の観光政策とスマート・ツーリズムの推進状況について、状況を把握した。また、ビッグデータ活用について文献をレビューし、観光地でのビッグデータ活用事例の収集と視察を行った。イタリアでは、世界遺産「ヴェローナ市街」を対象として、観光者のクチコミ投稿を通して、言語と国籍による投稿の相違および観光スポットの空間分布を解析した。

コロナ禍の影響を受け、外国での調査実施が難しくなり、一部の調査は日本国内で実施するように方向転換した。国内の旅行会社（大手企業3社、イタリア専門企業1社）へ、海外観光者のSNS活用および活用前後の観光行動の変化について調査し、企業と観光者のSNSやウェブサイトの活用状況および旅行動機への影響を解明した。カンボジアについて、ガイドブックとインターネットによる資料収集を行った。カンボジアを扱ったメディア（ガイドブック・映像資料）の収集・記事分析により、バックパッカーの集積過程、ガイドブックの経年変化と観光地認識との関係、バックパッカーの関心点の変容を明らかにした。ビッグデータに関する文献レビューを行い、ビッグデータ批判に対して観光研究から対話をすることが、スマート・ツーリズムの利点と問題点を明らかにするために必要な作業であると結論付けた。その検証の一環として、ビッグデータ活用事例である京都市が公開する「観光快適度」や金沢市と富山市のシェアサイクルを事例に、ビッグデータがいかに活用され、観光支援サービスとしていかに組み込まれているのかについて視察した。

しかしながら、観光産業におけるICTの活用はコロナ禍によって加速されたものもあり、一部の観光地域や観光スポットにおいてはオンラインでの観光情報発信が活発化した。本研究の内容でもあるオンラインでの情報発信と情報コミュニティを解明する良い機会でもあった。特に、中国の観光支援サイト「大衆点評」から東京区部の飲食店の情報を収集し、地理情報システム（GIS）とテキストマイニングなどの手法を活用して、訪日中国人観光者の飲食嗜好と空間構造を解明した。

2020年には日本観光研究学会でセッションまたはシンポジウムを開催し、研究の成果を公表した。同時に、研究成果は複数の学会の全国大会で口頭発表を行い、学術誌にも投稿した。

上述の通り、日本における既存のICTだけに重点を置く視点は、これまでの観光研究で欠けている点でもある。本研究は、こうした日本の観光状況そして海外の先進事例を念頭に置いて進め、その結果を世界の観光研究の発展に位置付けようと努力した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 18件）

1. 著者名 杜国慶	4. 巻 64
2. 論文標題 観光にみる中国の人の移動と地域変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 50-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭玉姬	4. 巻 16
2. 論文標題 大学生の海外旅行実施に対する意向調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究論集	6. 最初と最後の頁 165-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 李崗	4. 巻 12
2. 論文標題 中国におけるスマート・ツーリズムの展開と特徴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要	6. 最初と最後の頁 35-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 澁谷和樹	4. 巻 22
2. 論文標題 ビッグデータ時代における観光行動研究の現状と課題：地理学からの検討を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立教大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 128-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 五股みどり	4. 巻 2020
2. 論文標題 ルーラルツーリズムの推進組織のあり方に関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域活性学会研究大会論文集	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杜国慶	4. 巻 13(2)
2. 論文標題 ヴェローナの都市特色とイメージ形成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 99-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杜国慶	4. 巻 35(8)
2. 論文標題 疫情下对智慧旅游的再認識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 旅游学刊	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 五股みどり	4. 巻 2021(05)
2. 論文標題 農村を潤すイタリアのアグリツーリズム (世界の農業は今)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 五股みどり	4. 巻 5
2. 論文標題 新型コロナウイルス問題下での学生による観光地支援の実践報告 栃木県足利市でのSNSを活用した観光プロモーション	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京大学地域活性研究センター年報	6. 最初と最後の頁 80-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鄭玉姫	4. 巻 17
2. 論文標題 大学生がみる浜松市の観光発展に必要な要因	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 浜松学院大学研究論集	6. 最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 澁谷和樹	4. 巻 11(11)
2. 論文標題 A Study on the Causes and Effects of Stressful Situations in Tourism for Japanese People	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Behavioral Sciences	6. 最初と最後の頁 143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 澁谷和樹	4. 巻 45
2. 論文標題 Visitor perception of Tokyo 's parks ' attributes: an analysis of the textual reviews	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Leisure/Loisir	6. 最初と最後の頁 121-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 金海景・佐藤大祐・杜国慶	4. 巻 32(2)
2. 論文標題 スマートツーリズムにおける観光動機と情報探索 訪日中国人大学生の参与観察から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杜国慶	4. 巻 33
2. 論文標題 ユーザ生成コンテンツにみる言語間の異同と観光スポットの分布 ヴェローナの旅行投稿を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 173-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杜国慶・金海景	4. 巻 23
2. 論文標題 中国の観光支援アプリの目的地イメージ要素と訪日観光者への作用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立教大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 11-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 澁谷和樹	4. 巻 24
2. 論文標題 スマートツーリズムにおける観光者の選択に関する考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 60-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杜国慶	4. 巻 24
2. 論文標題 言語による観光地イメージと都市観光要素の異同 ヴェローナ市街の日本語と中国語のオンライン投稿を事例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 20-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 板垣武尊	4. 巻 24
2. 論文標題 中国雲南省元陽におけるフラッシュパッカー向け宿泊施設の評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 114-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 板垣武尊・澁谷和樹	4. 巻 37
2. 論文標題 中国における日本人バックパッカーの観光行動の変化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 159-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭玉姫	4. 巻 19
2. 論文標題 韓国済州島における都市移住者の増加にともなう集落共同体のあり方	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 浜松学院大学研究論集	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杜国慶	4. 巻 25
2. 論文標題 スマート・ツーリズム研究の発展と潮流 英文文献に基づいて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立教大学観光学部紀要	6. 最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杜国慶・康乃馨	4. 巻 37
2. 論文標題 UGCにみる訪日中国人観光者飲食選好の空間構造 東京23区を事例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第37回日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 249-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 康乃馨・杜国慶	4. 巻 37
2. 論文標題 ユーザー生成コンテンツにみる訪日中国人観光者の飲食選好	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第37回日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 244-249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件(うち招待講演 7件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 五股みどり
2. 発表標題 ルーラルツーリズムに関わる農村女性の幸福度指標の検討
3. 学会等名 日本観光研究学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 澁谷和樹
2. 発表標題 ビッグデータ社会における観光研究の課題
3. 学会等名 日本観光研究学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五股みどり
2. 発表標題 ルーラルツーリズムの推進組織のあり方に関する一考察
3. 学会等名 地域活性学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 五股みどり
2. 発表標題 スマートフォン利用による海外旅行者の行動変化 - 日本とイタリアの観光事業者の聞き取り調査から
3. 学会等名 日本観光研究学会（ワークショップ）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 五股みどり
2. 発表標題 新型コロナウイルス問題下におけるイタリアの観光産業と観光政策
3. 学会等名 日本観光研究学会（ワークショップ）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 五股みどり
2. 発表標題 withコロナ時代の観光業
3. 学会等名 日光青年会議所シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 五股みどり
2. 発表標題 イタリア北部・南チロルのアグリツーリズム
3. 学会等名 農林水産政策研究所勉強会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 五股みどり
2. 発表標題 スマート・ツーリズムによる観光客の行動変化
3. 学会等名 京都府和束町・わづかビジネスカレッジ2020（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤大祐
2. 発表標題 スマート・ツーリズムにおける観光行動の類型とメカニズム 訪日中国人大学生への参与観察から
3. 学会等名 日本観光研究学会（ワークショップ）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澁谷和樹
2. 発表標題 ビッグデータ社会における観光者の選択
3. 学会等名 日本観光研究学会全国大会(ワークショップ)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澁谷和樹
2. 発表標題 観光スポットの情報空間 SNSと口コミサイトの比較からの検討
3. 学会等名 日本観光研究学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澁谷和樹
2. 発表標題 A study on the use and management of Twitter hashtags of antenna shops in Japan
3. 学会等名 the 18th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鄭玉姫
2. 発表標題 韓国人のSNS利用による観光情報利用の実態
3. 学会等名 日本観光研究学会全国大会研究(ワークショップ)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杜国慶
2. 発表標題 ヴェローナにおける観光投稿の異同
3. 学会等名 地理空間学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杜国慶
2. 発表標題 旅行サイト投稿に見る言語と観光スポット選択の異同 ヴェローナを事例として
3. 学会等名 日本観光研究学会（ワークショップ）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杜国慶
2. 発表標題 ユーザ生成コンテンツにみる言語別観光スポットの分布と異同 TripAdvisorのヴェローナ投稿を事例として
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杜国慶
2. 発表標題 Re-Understanding of Smart Tourism under the Epidemic of COVID-19
3. 学会等名 International Association for China Tourism Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李崗
2. 発表標題 中国におけるスマートDESTINATIONの推進について 安徽省黄山市を事例に
3. 学会等名 日本観光研究学会（ワークショップ）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李崗
2. 発表標題 無形文化遺産と観光文化のはざま 「徽州地域」の祖先祭祀を事例として
3. 学会等名 観光学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李崗
2. 発表標題 ICT技術の進化と観光の変化～スマート・ツーリズムの現在～
3. 学会等名 藤沢市市民講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板垣武尊
2. 発表標題 カンボジア、シアヌークビル州ロングサンルーム島における宿泊施設の変化
3. 学会等名 日本観光研究学会（ワークショップ）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板垣武尊
2. 発表標題 コロナ禍におけるPBLゼミの実践報告：和洋女子大生が考える理想のデートコース
3. 学会等名 日本観光ホスピタリティ学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杜国慶
2. 発表標題 ユーザ生成コンテンツにみる言語間の異同と観光スポットの分布 ヴェローナの旅行投稿を事例として
3. 学会等名 日本観光研究学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杜国慶・田中雄大
2. 発表標題 観光者口コミに見るサイクルツーリズムの目的地イメージ要素 しまなみ海道を事例として
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杜国慶
2. 発表標題 Ice & Snow Tourism in Japan
3. 学会等名 東北アジア氷雪旅游産業論壇（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杜国慶
2. 発表標題 日本のルーラル・ツーリズム発展とその研究
3. 学会等名 第三回吉林省文化と旅游産業融合発展論壇（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 板垣武尊・澁谷和樹
2. 発表標題 中国における日本人バックパッカーの観光行動の変化
3. 学会等名 日本観光研究学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 康乃馨・杜国慶
2. 発表標題 ユーザー生成コンテンツにみる訪日中国人観光者の飲食選好
3. 学会等名 日本観光研究学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杜国慶・康乃馨
2. 発表標題 UGCにみる訪日中国人観光者飲食選好の空間構造 東京23区を事例として
3. 学会等名 日本観光研究学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澁谷和樹
2. 発表標題 日本版MaaSにおける観光との連携状況について
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杜 国慶・康 乃馨
2. 発表標題 ユーザ生成コンテンツにみる訪日中国人観光者の飲食選好の空間構造 東京23区を事例として
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 橋本俊哉・杜国慶・佐藤大祐・庄司貴行・門田岳久・高岡文章・西川亮・小野良平・毛谷村英治・石橋正孝・松村公明・羽生冬佳・東徹・野田健太郎・千住一・大橋健一・韓志昊・麻生憲一・豊田由貴夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 262
3. 書名 大学的東京ガイド - こだわりの歩き方「外国人ツアーリストはいつ、どこにいる? (杜国慶)」	

1. 著者名 橋本俊哉・杜国慶・佐藤大祐・庄司貴行・門田岳久・高岡文章・西川亮・小野良平・毛谷村英治・石橋正孝・松村公明・羽生冬佳・東徹・野田健太郎・千住一・大橋健一・韓志昊・麻生憲一・豊田由貴夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 262
3. 書名 大学的東京ガイド - こだわりの歩き方「東京の水辺空間の変遷 (佐藤大祐)」	

1. 著者名 白坂蕃・稲垣勉・小沢健市・古賀学・山下晋司・佐藤大祐	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 450
3. 書名 観光の事典「マリンスポーツ(佐藤大祐)」	

1. 著者名 石川義孝・片岡博美・是川夕・高畑幸・竹下修子・竹ノ下弘久・千葉立也・杜国慶・中谷友樹・西原純・花岡和聖・福本拓・宮澤仁・山内昌和・山下清海・山本健兒	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 262
3. 書名 地図でみる 日本の外国人 改訂版「2 分布(杜国慶)、25 帰化(杜国慶)」	

1. 著者名 澁谷和樹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 現代観光地理学への誘い	

1. 著者名 五艘みどり	4. 発行年 2022年
2. 出版社 八朔社	5. 総ページ数 280
3. 書名 「地域」の学び方 - 経済・社会を身近に考えよう	

1. 著者名 須藤 廣、遠藤 英樹、高岡 文章、松本 健太郎、澁谷和樹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 よくわかる観光コミュニケーション論	

1. 著者名 杜国慶	4. 発行年 2023年
2. 出版社 立教大学観光学部	5. 総ページ数 48
3. 書名 機関誌RT「特集 スマート・ツーリズム」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 大祐 (Sato Daisuke) (20405616)	立教大学・観光学部・教授 (32686)	
研究分担者	五艘 みどり (Goso Midori) (00508608)	帝京大学・経済学部・准教授 (32643)	
研究分担者	鄭 玉姬 (Jung Okhee) (80742163)	浜松学院大学・現代コミュニケーション学部・講師 (33810)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	李 崗 (Li Gang) (60832657)	多摩大学・グローバルスタディーズ学部・専任講師 (32695)	
研究分担者	板垣 武尊 (Itagaki Takeru) (40846763)	和洋女子大学・国際学部・助教 (32507)	
研究分担者	澁谷 和樹 (Shibuya Kazuki) (10846455)	立教大学・観光学部・助教 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関